

長野県埋蔵文化財ニュース

No. 34

1992.3.30

(財)長野県埋蔵文化財センター

長野調査事務所
〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
TEL 0262-93-5926

(財)長野県埋蔵文化財センター 創立10周年をむかえる

(財)長野県埋蔵文化財センター

昭和57年3月に財団法人長野県埋蔵文化財センターが長野県民、関係学会等の厚い期待のもとに設立され、今年度で10周年を迎えることとなりました。

昭和57年4月、岡谷調査事務所が開所し、中央自動車道長野線建設にともなう岡谷市内の遺跡の調査が開始されました。当初、職員12名という小所帯でスタートしましたが、長野道や上信越自動車道の高速交通網の整備がすすむとともに、調査も県内を北上し、現在では北は中野市域、東は佐久市域と、県内各地展開するに至っています。その事業も、高速道路の用地内の調査にとどまらず、上越新幹線、オリンピック関連道路など多岐にわたる大規模開発事業に対象を広げてきており、現在では職員数も95名を数える大所帯になり

ました。

事業としましては、この10年の間に、高速交通網整備のために必要となる埋蔵文化財の調査に対応し、県民の埋蔵文化財への関心の高さに答えるべく普及・啓発事業も微力ながら実施してきました。

10周年の節目をむかえるにあたり、今まで御協力、御指導をいただいた県民の皆様に、当法人の10周年の成果を御覧いただくべく10周年記念事業を計画し、特別委員会を設け1年前から準備を重ね実現することができました。その内容は、特別展示会や記念講演会の実施、10周年記念誌の刊行、論文集の刊行等です。

ここで、簡単に10周年記念事業の内容を紹介してみたいと思います。

記念式典



記念式典・祝賀会

平成4年2月16日(日)午前11時より、長野県民文化会館小ホールを会場に、来賓、旧職員、現職員合わせて180名が集まり、記念式典が開催された。最初に、宮崎理事長のあいさつがあり、次に塚原専務理事より創立から10年にわたる経過報告がおこなわれた。最後に、来賓として、長野県議会文教企業委員会小林副委員長、長野県考古学会森嶋会長、日本道路公団より御祝辞をいただき、閉会となった。

引き続き会場を長野バスターミナル会館に移し、祝賀会が行われた。会場では、なつかしい顔も多くみられ、10周年の思い出を語り合う姿がみられた。



理事長あいさつ

記念講演会

記念式典、祝賀会の後、同じく県民文化会館小ホールを会場に、講師に田中琢奈国立文化財研究所埋蔵文化財センター長をむかえ、「遺跡に歴史を読む」という演題で記念講演会が行われた。

参加者は450名を越え、用意された椅子の数が間に合わず、立って聞かれる姿もみられた。

山下県教育委員会文化課長によるあいさつと講師紹介ののち、田中先生の講演をいただいた。

簡単にその内容を紹介してみたい。

はじめに人間の歴史を1mに換算すると、字で書かれた歴史はわずか1cmにも満たないとし、残りの99cmは遺跡から歴史を語るしかないとし、遺跡の重要性を強調された。現在、遺跡調査の成果にマスコミの注目が集まり、新聞紙面全体の0.6%が割かれ、それを国庫予算の遺跡関係の占める割合が0.02%であるのと比較すると、30倍ほどになるとし、社会の関心が高いことを指摘された。次に吉野ヶ里遺跡を例に耶馬台国の問題を取り上げ、文献資料との関係を検討していくうえ

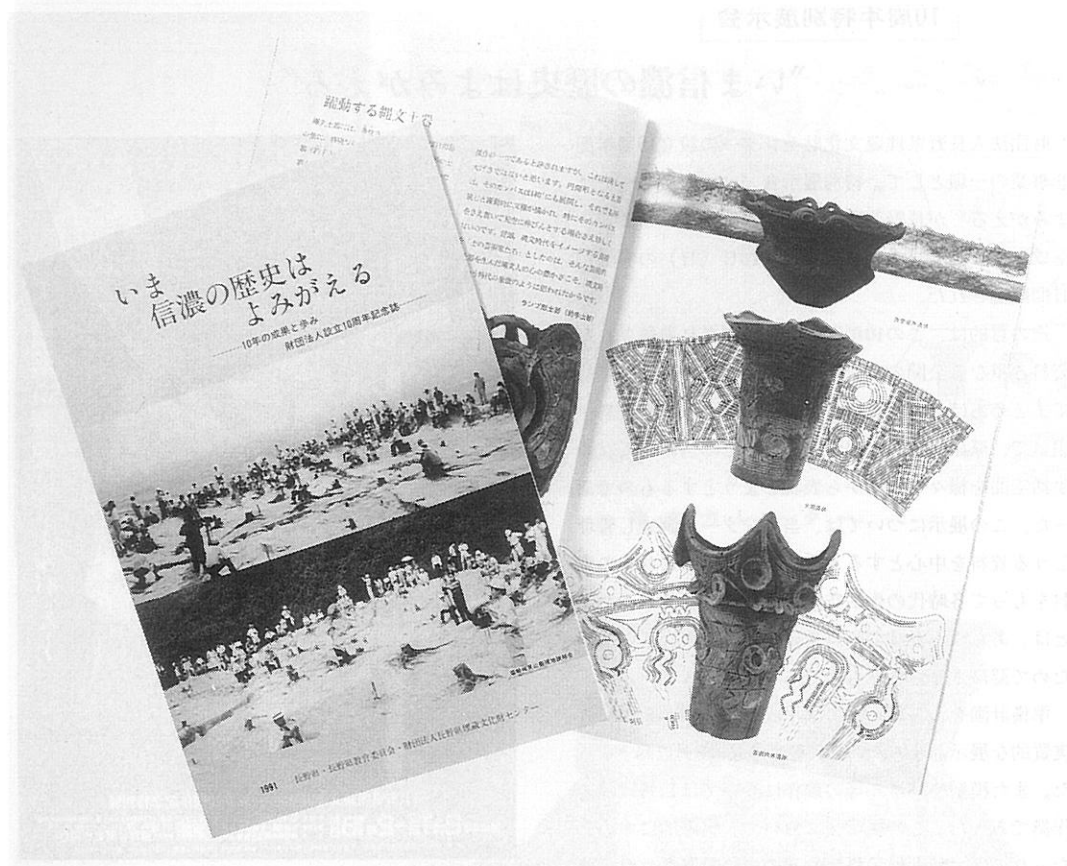


田中 琢 講師

で、遺跡から情報を収集していくことが重要な意味を持つことが述べられ、考古学的発掘資料のもつ限界性をも示された。次に、遺跡を「みそ汁」に、「ネギ」や「豆腐」などの具を遺物に例え、従来の具をすくっていたのみの成果から、現在は遺跡全体である「だし」の味にまで迫れることが可能になってきている。具体的には、北村遺跡の人骨の分析や、脂肪酸分析、年輪年代学などさまざまな新しい調査方法が採用され、従来の常識を破るような大きな成果をあげていることを、いくつかのエピソードを交えながら分かりやすく、説明していただいた。ただし、今後新たな調査方法が生まれ進歩していくためには、調査者の遺跡調査における目的意識が大切であり、さらに発掘現場に立つ者が、どれだけの見識や知識を持っているかによって、発掘調査の質は左右されることになると指摘を受けた。今後のセンターが調査をしていくうえで、重要な指針が示され、身が引き締まる思いであった。最後に、どのように歴史を読み取るか、沖縄や北海道の例を取り上げ視点の違いによって歴史が変わってくることを説明し、考古学資料も巨視的にみる必要があることを強調された。さらに、過去に何があったかを正確に知ることは、人類が現在どのような状況におかれているかを知るために重要で、人類が生きていくうえで参考になり、遺跡はその99cm以上の情報を持つと締めくくられた。

講演は、発掘の成果をユーモアを交え笑いを誘いながら、わかりやすく説明していただいたため、聴衆の方々も引き込まれるように聞き入っているのが印象的であった。

最後に、伊藤副理事長の講師への謝辞があり、盛況のうちに終了した。



10周年記念誌「いま信濃の歴史はよみがえる」

10周年記念誌の刊行

特別展示会と同一のタイトル、『いま信濃の歴史はよみがえる』、とした10周年記念誌を刊行しました。当財団の10年間の調査成果を集約し、特別展示会の図録としても役立てることができるような冊子にしようと考えたのです。A4版70ページの大半をカラー印刷とし、単に調査遺跡や出土遺物を紹介するのではなく、人々の生活をイラスト等を用いて復元しようと試みました。中学生にも読めるように、と考えた内容を簡単に紹介します。

「列島の先人たち」（先土器時代）では、佐久市下茂内遺跡の石槍製作跡の復元を中心にし、石槍製作技術などもイラストで説明します。「土の芸術家たち」（縄文時代）では、縄文人の衣・食・住をテーマとしてその生活ぶりを示す一方、明科町北村遺跡や塩尻市上木戸遺跡の墓制等も示します。「稲作がもたらしたもの」

（弥生時代）では、長野市石川条里遺跡や川田条里遺跡で判明した水田跡や農具から復元される稲作技術、松原遺跡発見の集落跡等から、稲作開始後の生活の変化を紹介します。「まつりと墓」（古墳時代）では、長野市篠ノ井遺跡等の集落跡にみられる日常生活と、石川条里遺跡や大星山古墳群にみられる祭祀や墓制を対比し、時代の特性を浮き彫りにします。「村は語る」（奈良時代～近世）では塩尻市吉田川西遺跡や松本市の諸遺跡を中心に、古代～中世の集落景観や生活がいかに変遷したかを描写します。「現代の考古学」では最近の発掘技術や普及公開活動を点描します。

本誌は各方面から好評を得、特別展示会場では千冊近くも実費頒布しました。まだ若干残部がありますので、御希望の方は当埋文センターまでお早めに申し込み下さい。

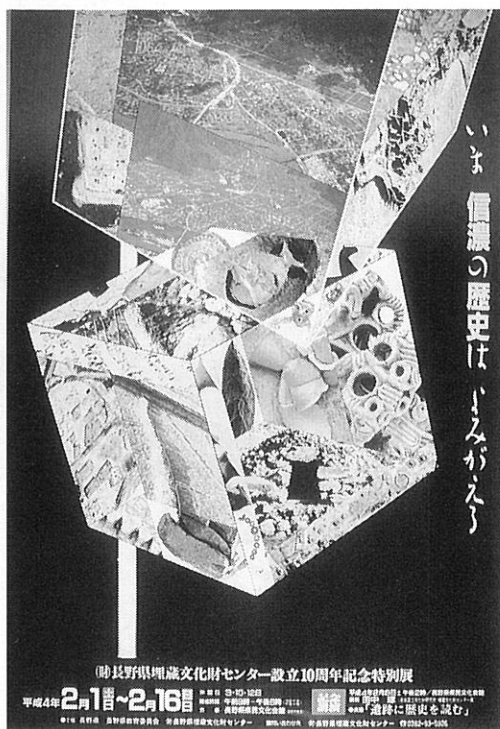
10周年特別展示会

“いま信濃の歴史はよみがえる”

財団法人長野県埋蔵文化財センターの設立10周年記念事業の一環として、特別展示会“いま信濃の歴史はよみがえる”が長野県県民文化会館展示ホールにて、平成4年2月1日（土）から2月16日（日）の実質13日間開催された。

その目的は、この10年間に発掘調査され蓄積された資料の単なる公開のみならず、これまでに報告書としてまとめあげられた資料やここ数年の未発表資料を用いて、原始・古代・中世を中心とした当時の人々の生活空間を様々な角度から表現しようとするものであった。この展示については、当センターが調査・管理している資料を中心とするものであったが、これらの資料をもって各時代の生活空間の一端を表現できたことは、あらゆる意味で資料や研究の蓄積の大きさを新ためて認識させられるものであった。

準備計画をねり始めたのは平成3年6月以降であり、実質的な展示品リストや展示案の作成は9月以降となった。また模型やパネル等の製作については12月以降の作業であった。この展示会において、实际的に中心となったのは“特別展示係”やその中に設置された“展示企画係”であったが、それぞれの担当者が発掘調査や資料整理の仕事と併行する形での準備作業となったため、担当者の努力と誠意に頼るところが大きかった。



展示会ポスター

展示会の各コーナーは、オープニング・列島の先人（先土器時代）・土の芸術家たち（縄文時代）・稲作がもたらしたもの（弥生時代）・まつりと墓（古墳時代）・村は語る（奈良時代から室町時代）・エンディングとする構成であった。

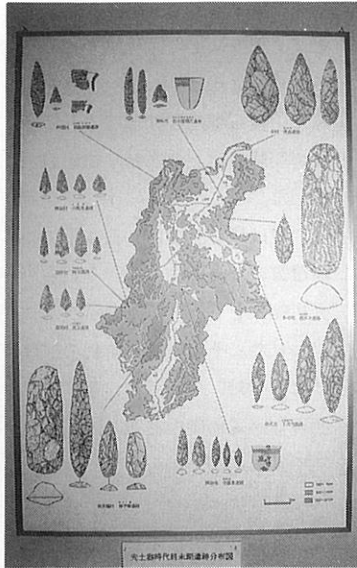
“オープニング”では、年表・写真パネル・模型を用いて、発掘調査や調査成果の概観を理解してもらうための展示であった。

“列島の先人”では、佐久市下茂内遺跡の資料を中心に、石器の製作工程や石器づくりをおこなうムラの様子が展示の中心となった。

“土の芸術家たち”では、塩尻市上木戸遺跡・明科町北村遺跡・長野市村東山手



展示会用リーフレット

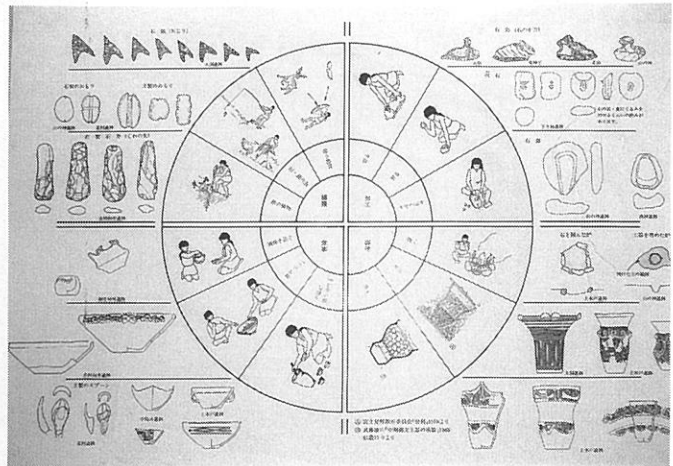


先土器時代パネル

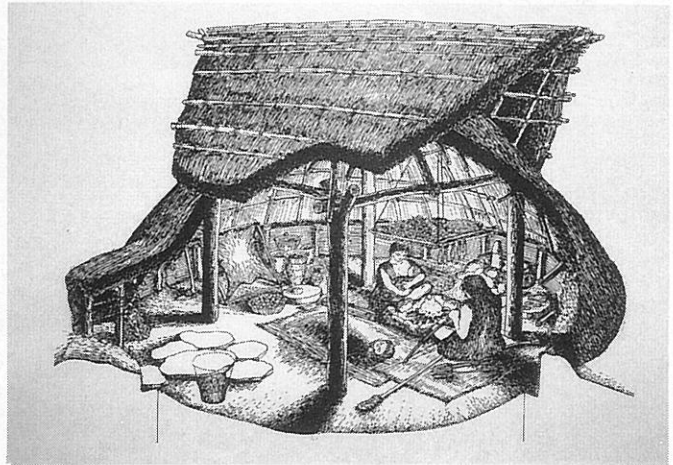
遺跡での資料を中心に当時の衣・食・住という視点からテーマにそった展示がおこなわれた。

「稲作がもたらしたもの」では、長野市石川条里遺跡・同川田条里遺跡・同松原遺跡・同春山B遺跡での資料を中心に、稲作と人々とのかわりや埋葬方法の復原などによって当時の人々の生活・習慣が展示されていった。

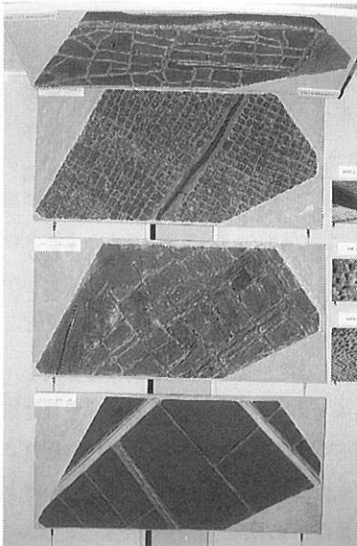
「まつりと墓」では、長野市石川条里遺跡・同篠ノ井遺跡・同大室古墳群・同大星山古墳群・同榎田遺跡の資料を



縄文カレンダー



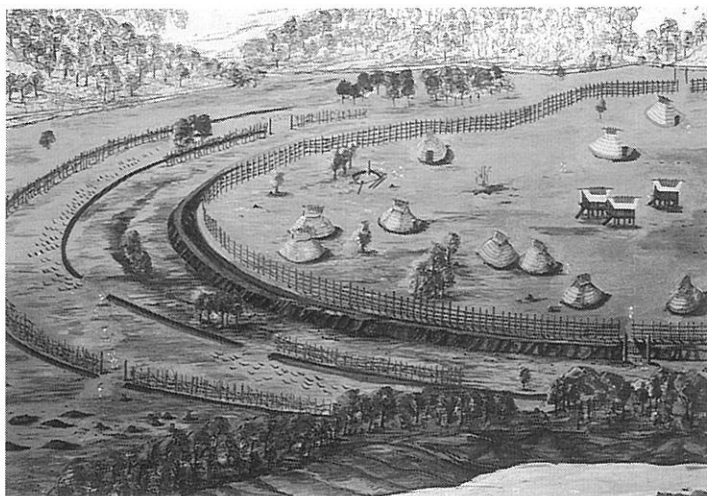
縄文時代住居内での生活



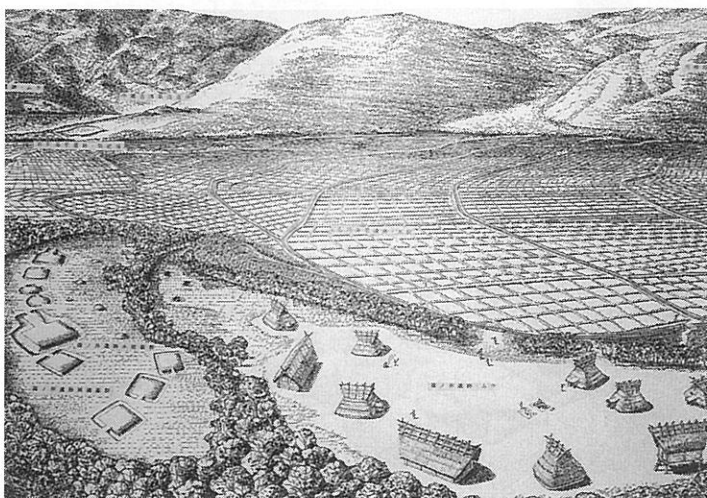
水田耕作の変遷



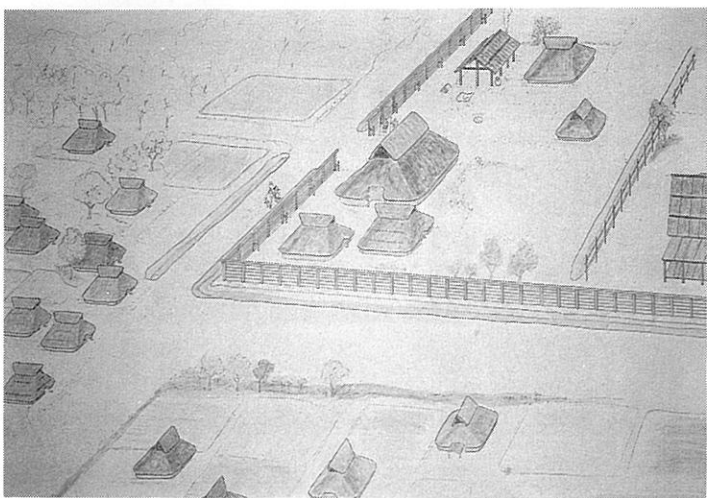
弥生時代パネル



弥生時代ムラ（春山B遺跡）の復原イラスト



古墳時代ムラ（長野市塩崎地区諸遺跡）の復原イラスト



平安時代ムラ（吉田川西遺跡）の復原イラスト

中心に展示がおこなわれた。その中で、イラストによって4世紀から5世紀にかけての生活空間の復原や、積石塚や合掌形石室を通しての朝鮮半島との関わりが示されていた。

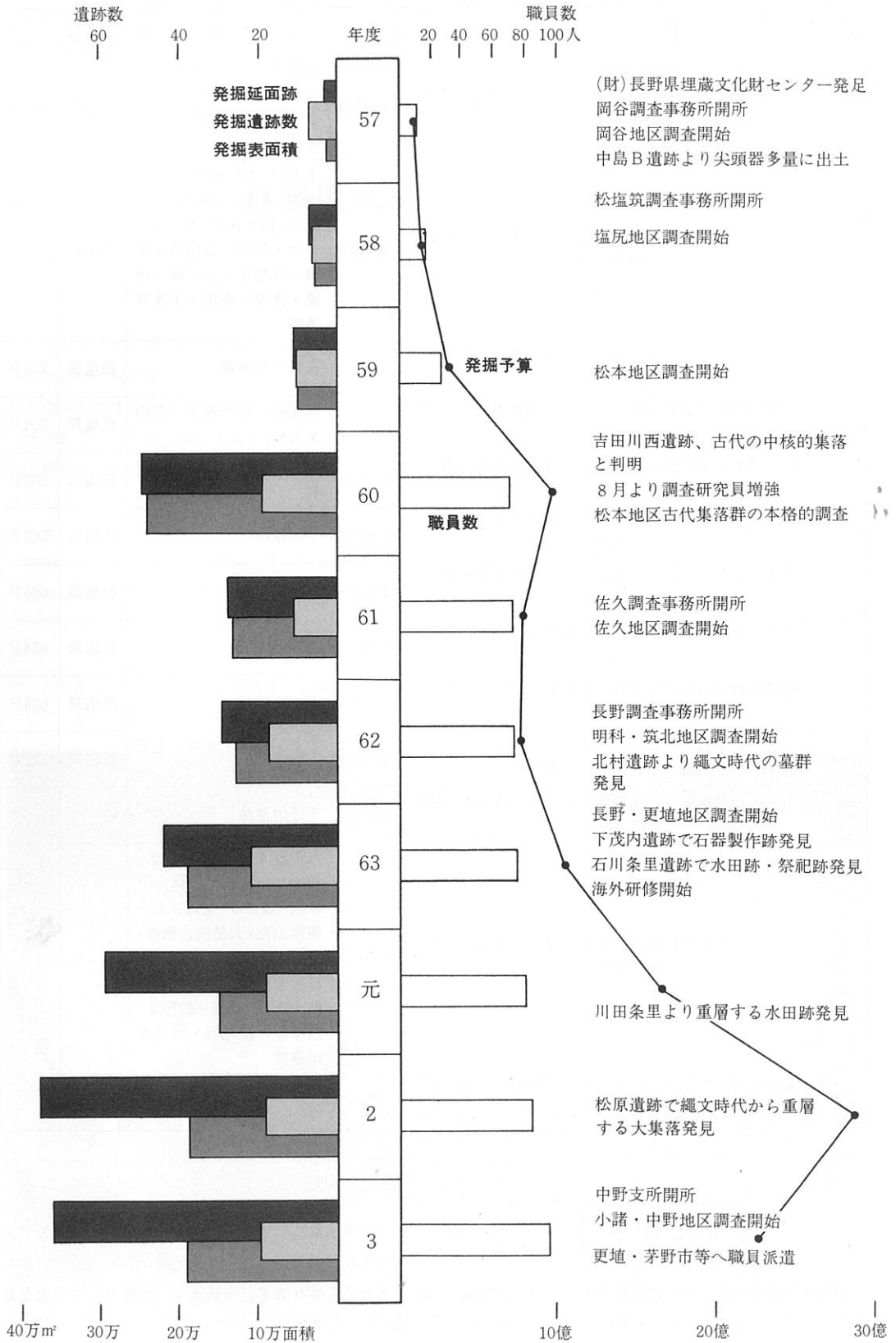
“村は語る”では、松本平での諸遺跡の資料を中心に、それらの分析結果をもとにした展示がおこなわれた。その内容は時代の推移による“村”の変遷や、東アジア的視点からの陶磁器類の流通を中心とするものであった。

“エンディング”では、重要文化財に指定された塩尻市吉田川西遺跡出土の緑釉陶器類の展示を中心に、センターの業務やなすべき役割についての展示がおこなわれた。また、あわせてセンター製作の発掘調査に関わるビデオの放映や、パソコンによるQ and Aコーナーが設けられた。

以上の内容で展示会が開催された訳であるが、開催期間の前半は宣伝不足や大雪などの悪天候によって出足はにぶったものの、開催期間中端からの盛況により4,400名ほどの見学者が訪れる結果となった。

今回の展示会は、10年間に蓄積された膨大な資料とその研究成果を、限られたスペース・時間・予算の中でいかに理解しやすく公開できるかに重点がおかれたが、限られた状況の中で、それぞれがよりベストに近い形で展示会として終わられたような気がする。しかし、新たな資料蓄積は膨大なものであり、研究に研究を重ねてもつぎるものではない。仕事に研究により一層の努力を積み重ねてゆかねばならないことに、“今ふと気がつく”のである。

10 年 の あ ゆ み



10年間で刊行した報告書一覧

報告書 No.	報 告 書 名	刊行 年月	収 録 遺 跡	刊 行 事務所	ページ 数
1	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1 岡 谷 市 内	1987.3	中島A・中島B・大洞・ 大久保B・膳棚A・膳棚 B・下り林・西林・柳海 途遺跡	松塩筑	565P
2	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2 塩尻市内その1	1988.3	上木戸・吉田向井・八窪・ 大原・青木沢・青木沢東・ 北山・御堂垣外・栗木沢・ ヨケ・樋口・高山城・竜 神・竜神平・山ノ神・中 原・犬原・高田・千本原 遺跡	松塩筑	527P
3	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3 塩尻市内その2	1989.3	吉田川西遺跡	松塩筑	771P
4	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4 松本市内その1	1990.3	総論編（報告書4～7の まとめ）	松塩筑	301P
5	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書5 松本市内その2	1989.3	神戸・中二子・上二子遺 跡	松塩筑	263P
6	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書6 松本市内その3	1990.3	下神遺跡	松塩筑	566P
7	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7 松本市内その4	1990.3	南栗遺跡	松塩筑	655P
8	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書8 松本市内その5	1990.3	北栗遺跡	松塩筑	658P
9	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書9 松本市内その6	1990.3	三の宮遺跡	松塩筑	634P
10	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書10 松本市内その7・豊科町	1989.3	北方・南中・北中・上手 木戸遺跡	松塩筑	225P
11	上信越自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1 佐久市内その1	1992.3	下茂内遺跡	佐 久	
12	上信越自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐久市内その2	1991.3	木戸平A・吹付・上中原・ 鶉フネ・東林・西林・干 草場・城の口・東祢ふた・ 西祢ふた・大星尻古墳群・ 丸山古墳群・丸山・丸山 II・北山寺・東大久保・ 西大久保・腰巻・栗毛坂・ 西赤座・枇杷坂・中久保 田遺跡	佐 久	
13	上信越自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3 長野市内その1	1992.3	大室古墳群（明治大学に 委託）	長 野	

あ と が き

10周年記念事業も、現在企画がすすんでいる記念論
文集をのぞき、好評のうちに終了することができました。

センターも10年の節目を迎え、新たな気持ちで、
埋蔵文化財の調査、普及啓発活動に力を入れていきな
いと考えております。今後とも、ご協力、ご支援をお
願ひいたします。